

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 岐阜大学教職大学院
コラボ研修プログラム	事業名：通常学級を支える校長の特別支援教育マネジメント研修
支援事業報告書	研修等名：【NITS・岐阜大学教職大学院コラボ研】 通常学級を支える校長の特別支援教育マネジメント研修
	開催日時：令和5年8月22日(火) 13:00-16:00、12月21日(木) 10:00-12:00 (研修会) 令和6年2月5日(月) 13:00-16:00 (岐阜大学シンポジウム) 開催場所：岐阜大学 ZOOM 会議 (岐阜県岐阜市柳戸 1-1) 参加人数 (20) と参加者の属性：岐阜県小・中・義務教育学校校長 20名、岐阜大学シンポジウム 215名

内容：

「令和の日本型学校教育」を実現するために、校長先生のリーダーシップやマネジメント力の向上が求められている。とくに小・中学校の通常学級には、知的発達に遅れはないものの、学習面や行動面に著しい困難を示す子どもが 8.8% 在籍している。そこで、岐阜大学教職大学院では NITS とコラボして、「通常学級の特別支援教育」をテーマとして、学校を支える環境整備を踏まえて、校長先生が自校の充実策を考える研修を開発した。

目的：小中学校の校長先生が通常学級の特別支援教育を推進するための見通しを得る。

対象：岐阜県の研究協力者の校長先生 20 名

内容：①特別支援教育マネジメント研修 8月22日(火) 13:00-16:30

・特別支援教育のオンデマンド事前学習 岐阜大学教職大学院教員(平澤)が作成した動画を受講

第1部 クロストーク 13:00-13:50「通常学級の特別支援教育を考える」

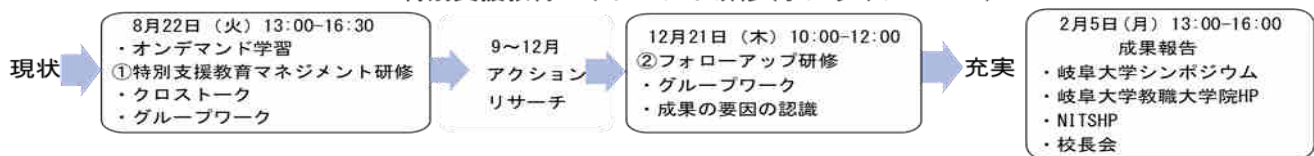
岐阜大学教職大学院教員(平澤)の進行で、岐阜県教育委員会(丹羽宏樹氏)、小中校長会(平工雅之氏)、古川中学校長(中村裕幸氏)がトークし、現状の課題と対応策を明らかにした。

第2部 課題解決グループワーク 14:00-16:30「自校の充実策を考える」

希望テーマの5グループ(各4名)で、岐阜大学教職大学院教員5名(平澤、原、出口、芥川、古賀)とファシリテーター5名がワークシートを用いて進行し、校長先生が充実策を作成、報告、交流した。

②フォローアップ研修 12月21日(木) 10:00-12:00「校長先生は何ができるか」

特別支援教育マネジメント研修(オンライン ZOOM)



成果：

①全体的満足度：10点中8.8点(8月)、9.1点(12月)

②研修の目的や方法：「とてもよかった」5割以上「ある程度よかった」と合わせて9割近く

③研修で得られたこと：「とても得られた」5割以上「ある程度得られた」と合わせて9割近く

④研修成果の活用：本研修で考えた充実策を実践した「とても」40%「ある程度」60%、実践して成果が得られた「とても」27%「ある程度」73%

⑤受講者の感想：学校経営の6観点から、自身の学校経営実践を振り返り、大切なことを明らかにすることに役立った。支援や体制が不十分な中でも校長としてできることが明らかになった等を得た。

アイデアや工夫したこと：

①小中学校の校長先生を対象とした通常学級の特別支援教育マネジメント研修

②オンデマンド学習で特別支援教育の基本知識を学び、クロストークで現状を知り、グループワークで自校の充実策を作成し、その実践成果の交流を行う研修コンテンツ

③研修を受けるだけでなく、その成果を学校、地域で共有する仕組み

④自治体、校長会の校長研修に取り入れやすい内容

⑤同時双方向のオンライン研修

①グループワーク（8月22日）「学校経営6観点から自校の充実策を考える」

<困り>

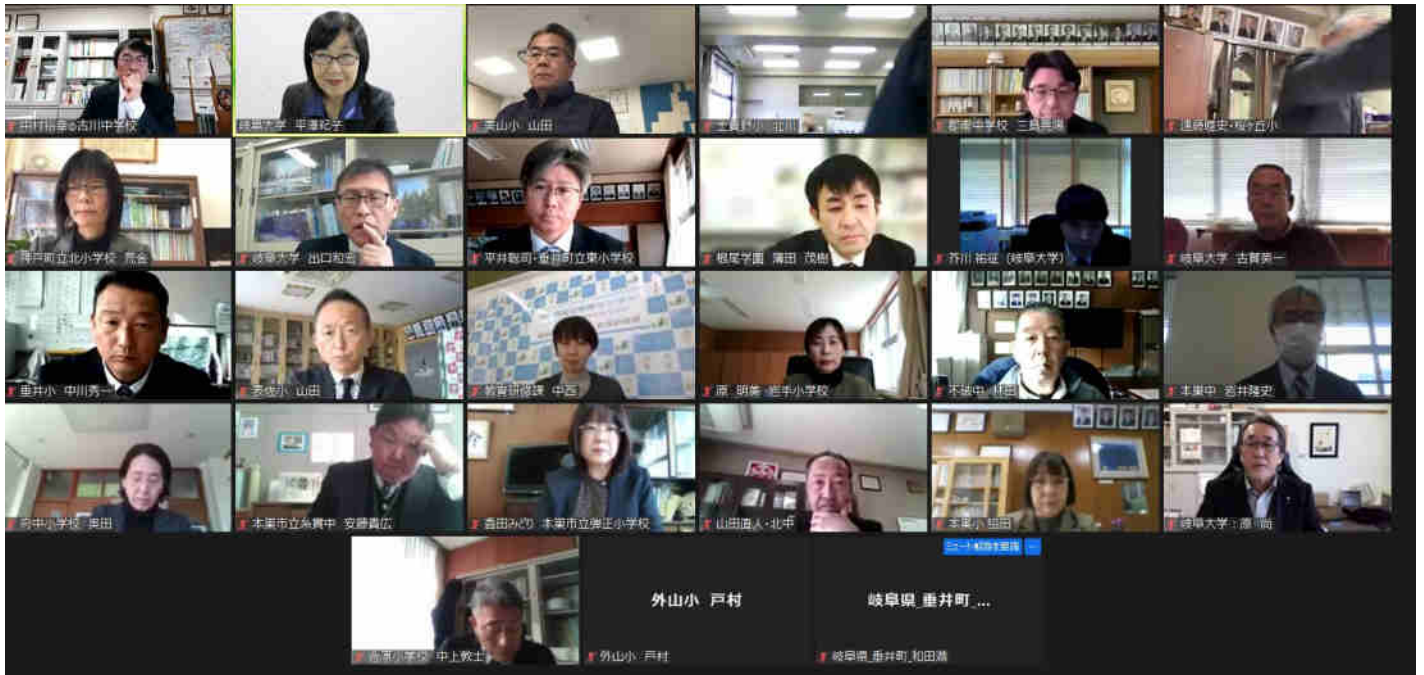
- 児童生徒
 - ・全体の中でどんな支援ができる？
 - ・支援児を含む育ち
 - ・自己肯定感が高まる学級づくり
- 教員
 - ・通常担任は困り感しかでてこない
 - ・通常担任と特支担任の意識のずれ
 - ・支援員におまかせ
 - ・若手教員の児童理解 特別支援視点の授業
 - ・今がよいが先を見据えた人材育成
- 体制
 - ・特コを中心とした体制
 - ・通級、通常がつながっていない
 - ・教科担任間の情報共有



<充実策>

- ①ビジョン・経営計画
 - ・全職員で全児童を育てる
- ②人事
 - ・特コを教頭
- ③組織運営・④人材育成
 - ・特コ中心の体制づくり
 - ・特コによるミニ研修
 - ・通常担が特支の授業参観
 - ・通級の内容を通常で共有
 - ・教職員の対話の場
 - ・個別懇談会に特コが同席
 - ・校区交流会を学びの場に
- ⑤外部連携
 - ・大学等の講師
 - ・校区小中の交流・連携

②フォローアップ（12月21日）「校長先生は何ができるか？」



- ・ **特別支援教育は特学のこと、通常は関係ないからの転換**
- ・ 校長先生が見通しをもつと、人生を見据えた一人一人を大切にする教育の重要性を教職員、子ども、地域に伝え、人を育てながら、組織運営を行える
- ・ 課題は専門性のある教員の育成と配置、現在は内外の専門性を活用する校内体制、個々の担任の指導レベル向上

③成果報告岐阜大学シンポジウム（2月5日）「校長が推進するインクルーシブ教育を考える」

全国の大学、学校教育委員会関係、市民 215 名が参加した。兵庫教育大学学長・日本教職大学院協会会長の加治佐哲也氏の基調講演「今日の校長に求められる資質やその学び」を踏まえて、本事業報告と参加者交流を行った。人材や体制が不足する中でも、校長先生が情報を得て、見通しをもつと全校体制で特別支援教育が推進できること、同時に学校を支える環境整備が必要ながことが明らかにされた。

◆特別支援教育マネジメント研修の動画、教材、報告書等は岐阜大学教職大学院 HP に掲載

<https://www.ed.gifu-u.ac.jp/kyoshoku/administrator/>